

令和8年6月3日

食品安全委員会

委員長 祖父江 友孝 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会

座長 児玉 浩明

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

令和8年2月3日付け7消安第6084号をもって農林水産大臣から食品安全委員会に意見を求められた飼料「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMZIR260系統」に係る食品健康影響評価について、当専門調査会において審議を行った結果は別添のとおりですので報告します。

(案)

遺伝子組換え食品等評価書

チョウ目害虫抵抗性  
トウモロコシ MZIR260 系統  
(飼料)

令和8年（2026年）6月

食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会

### <審議の経緯>

- 2026年2月3日 農林水産大臣から遺伝子組換え食品等の安全性に係る食品健康影響評価について要請（7消安第6084号）、関係書類の接受
- 2026年2月10日 第1013回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2026年2月20日 第274回遺伝子組換え食品等専門調査会
- 2026年4月21日 第1022回食品安全委員会（報告）
- 2026年6月3日 遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委員会委員長に報告

### <食品安全委員会委員名簿>

- 祖父江 友孝（委員長）
- 浅野 哲（委員長代理 第一順位）
- 頭金 正博（委員長代理 第二順位）
- 春日 文子（委員長代理 第三順位）
- 小島 登貴子
- 杉山 久仁子
- 松永 和紀

### <食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員名簿>

- | (2026年3月31日まで) |        | (2026年4月1日から) |        |
|----------------|--------|---------------|--------|
| 児玉 浩明（座長）      |        | 児玉 浩明（座長）     |        |
| 佐々木 伸大（座長代理）   |        | 佐々木 伸大（座長代理）  |        |
| 伊藤 政博          | 中島 春紫  | 伊藤 政博         | 爲廣 紀正  |
| 小野 竜一          | 中村 亮介  | 小野 竜一         | 中島 春紫  |
| 古園 さおり         | 藤原 すみれ | 角田 茂          | 中村 亮介  |
| 柴田 識人          | 百瀬 愛佳  | 古園 さおり        | 藤原 すみれ |
| 爲廣 紀正          |        | 柴田 識人         |        |

### <第274回遺伝子組換え食品等専門調査会専門参考人名簿>

- 山川 隆（国立大学法人東京大学大学院）

## 要 約

「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MZIR260 系統」について、食品健康影響評価を実施した。

本系統は、トウモロコシ (*Zea mays* subsp. *mays* (L.) Iltis) のデント種 AX5707 系統を既存品種とし、*Bacillus thuringiensis* に由来する *eCry1Gb.1Ig* 遺伝子、*Escherichia coli* K-12 株に由来する *pmi* 遺伝子を導入して作出されており、*eCry1Gb.1Ig* タンパク質を発現することでチョウ目害虫抵抗性が、PMI タンパク質を発現することで形質転換体の選抜マーカーが付与される。

ツマジロクサヨトウ等のチョウ目害虫が本トウモロコシを摂取すると、*eCry1Gb.1Ig* タンパク質が昆虫の中腸上皮細胞膜上の受容体と結合して中腸組織を損傷させることにより殺虫活性を発揮する。

「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日 食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、本系統では、新たな有害物質が生成されることはないため、肉、乳、卵等の畜産物中に新たな有害物質が移行することは考えられない。また、遺伝子組換えに起因する成分が畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や、家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質が生成される可能性は考えられない。

以上のことから、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針」（平成 16 年 1 月 29 日 食品安全委員会決定）に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。

## I. 評価対象飼料の概要

(申請内容)

名称：チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMZIR260系統

性質：チョウ目害虫抵抗性

申請者：シンジェンタジャパン株式会社

開発者：Syngenta Crop Protection, LLC. on behalf of Syngenta Crop Protection AG and its affiliates (米国)

「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MZIR260 系統」(以下「トウモロコシ MZIR260」という。)は、*Bacillus thuringiensis* に由来する *eCry1Gb.1Ig* 遺伝子、*Escherichia coli* K-12 株に由来する *pmi* 遺伝子を導入して作出されており、*eCry1Gb.1Ig* タンパク質を発現することでチョウ目害虫抵抗性が、PMI タンパク質を発現することで形質転換体の選抜マーカーが付与される。

## II. 食品健康影響評価

1. トウモロコシ MZIR260 には、チョウ目害虫抵抗性の形質が付与されている。遺伝子組換え作物を飼料として用いた動物の飼養試験において、導入遺伝子又は導入遺伝子から産生されるタンパク質が畜産物に移行することはこれまで報告されていない。

2. トウモロコシ MZIR260 は、食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会において、「遺伝子組換え食品(種子植物)に関する食品健康影響評価指針」(平成16年1月29日食品安全委員会決定)に基づき、食品としての食品健康影響評価を終了しており、人の健康を損なうおそれがないと判断している。

1.及び2.を考慮したところ、トウモロコシ MZIR260 に新たな有害物質が生成されることはないため、肉、乳、卵等の畜産物中に新たな有害物質が移行することは考えられない。また、遺伝子組換えに起因する成分が畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や、家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質が生成される可能性は考えられない。

以上のことから、トウモロコシ MZIR260 については、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」(平成16年5月6日食品安全委員会決定)に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品(種子植物)に関する食品健康影響評価指針」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。